様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

１ 事業名	統計調査事務	コード	165107

２ 担当部課	部等	企画政策部	課等	秘書広報課	作成者	清水　亮

３ 事業概要				
目的体系	基本目標	総合計画の推進に向けて		
	政　策	総合計画の推進に向けて	施　策	その他
予算科目		統計調査事務費	業務委託	なし（直営）
実施義務		あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし
根拠法令		なし		

●事業の内容（DO）

４ 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		統計グラフコンクールの実施及び統計調査結果の公表に係る事業
目的	対象者	市民、事業所
	意　図	統計思想の普及

５ 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

・統計調査関係者の各種表彰推薦事務
・第47回岡谷市統計グラフコンクールの実施、統計調査結果の公開を通じて統計思想の普及と啓蒙に努めた。
・統計を身近なものとして感じてもらうため、新たに「ポケット統計おかや」を作成、配布した。

前年度の課題への対応	・統計グラフコンクールの入選作品をホームページで公開した。 ・新たに「ポケット統計おかや」を作成、配布した。

６ 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 活動指標（指標名）	講習会開催回数			単位　回
実績値	1	1	1	
＊指標の説明	統計グラフコンクール書き方講習会の開催回数			
② 成果指標（指標名）	応募点数			単位　点
目標値	34	40	49	52
実績値	56	58	38	
達成度	164.7%	145.0%	77.6%	
＊指標の説明	統計グラフコンクールの応募点数			
＊目標値の設定方法の説明	過去5年の実績値の平均値			

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	456,902	1,978,102	436,074	461,000
経常経費	432,522	420,625	436,074	461,000
臨時的経費	24,380	1,557,477	0	0
＊臨時的経費の説明	臨時職員賃金、統計研修参加費用等			

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費		1,200,000	1,040,000	1,040,000	1,040,000
正規職員の人数（人）		0.15	0.13	0.13	0.13
③ 合計コスト（①＋②）		1,656,902	3,018,102	1,476,074	1,501,000
前年度比			182.2%	48.9%	101.7%
財源内訳	一般財源	1,641,162	3,001,962	1,473,634	1,461,000
	特定財源	15,740	16,140	2,440	40,000
＊特定財源の説明		統計書籍等の頒布収入			
④ 活動一単位あたりコスト		1,632,522	1,460,625	1,476,074	
前年度比			89.5%	101.1%	
⑤ コストに関する補足説明					

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　**妥当性　高い**

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　**有効性　標準**

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。　成果指標の実績値　前年度比　65.5%		0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。　成果指標の目標値　達成度　77.6%		0

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） ・統計調査について馴染みがなく、市民の関心が薄れていることが課題である。 ・統計グラフコンクールの応募者が固定化されている感がある。	
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ・統計調査結果を利活用しやすい形式で公開するなど（オープンデータ）、調査結果の有効活用に努める。 ・統計グラフコンクールについては、学校教育との連携により応募点数の増に努め、統計思想の普及を図る。	
	改善開始時期	H29.4

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	